2019～2020年度　国際ロータリーのテーマ
マーク・ダニエル・マローニー

RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

会報

2019►2020
WEEKLY REPORT

ロータリーは
世界をつなぐ

留萌ロータリークラブ
会長目標

**クラブの活性化と行動は
世界・地域に向けて**

会長／福士　幸子　　幹事／串橋　伸幸

プログラム

●本日
会員卓話「電気の販売と託送」
北海道電力㈱配送電カンパニー
留萌ネットワークセンター 所長　山根　達也 会員

●次週予定
「来賓卓話」　留萌開発建設部
道路整備保全課保全専門官　千葉　　学 様

会員誕生日
櫛　井　俊　介

結婚記念日
田　中　　卓

配偶者誕生日
武　田　有紀子

No. 2858
第28回　2月5日

出席報告

前例会
会員総数……31名
出免会員……2名
出免出席……2名
基準会員出席……17名
出席率……58.62%

前々会
第25回　1月15日
欠席会員……12名
内メイクアップ……2名
修正出席率……72.41%

例会／毎週水曜　12:15～13:15　留萌産業会館2F

会長報告

1．1月29日、地区国際奉仕委員会のＶＴＴ検証ツアーで、留萌クラブより燕会員が出席しております。帰国は２月３日の予定です。

中美智子会員の歓迎会を開催したいと思います。皆様にはすでにＦＡＸにて案内を送らせていただいております。出欠締め切りは本日までとなっておりますので、忘れずに出欠の返信をお願いします。

幹事報告

- 芦別ロータリークラブより２月例会案内を受領しました。
- １月30日は定例理事役員会が開催されます。出席義務者は忘れずに出席ください。

愛好会

湯どうふ会　　**堀 愛好会幹事**

２月５日午後６時30分、漁師の店富丸にて田

委員会報告

60周年実行委員会　　**對馬 実行委員長**

次年度留萌クラブは創立60周年を迎えます。実行委員会として実行委員長だけは決定しておりますが、委員会構成はまだ決定しておりません。今年度の役員構成、次年度の役員構成を考えて、実行委員会スタッフを決定したいと思っております。会員が少ないので、皆様には色々とご協力をお願いしなければならないと思いますが、ぜひご協力の程、よろしくお願いします。

開催時期は来年の４月から５月と考えておりましたが、ＩＭの開催も考慮にいれなければなりませんので、４月上旬か５月下旬という形になると思います。

最初に予算規模を決定しなければなりませんので、皆様のご意見を聞きながら、記念事業に何をするのか等を決定していかなければなりません。どうぞ皆様のご協力をお願いします。

３分間情報

会員研修委員会　　**青山 副委員長**

「ロータリアンの行動規範」内容変更について

昨年の１月、国際ロータリー理事会の決定により、ロータリーの行動規範の内容が変更され、５番目の項目が加わりました。新しい行動規範は以下の通りです。

〈ロータリアンの行動規範〉

ロータリアンとして私は以下の様に行動する。

1．個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2．取引の全てにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念を持って接する。
3．自分の職業スキルを生かして、若い人々を導き、特別なニーズを抱える人を助け、地域社会や世界中の人々の生活の質を高める。
4．ロータリーや他のロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5．ロータリーの会合、行事、および活動に於いてハラスメントのない環境を維持する事を支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起らないよう確認する。

ニコニコBOX

• 田中会員の我が生い立ち楽しみです。

福士会長

前　回	519,000円
今　回	2,000円
累　計	521,000円

プログラム

「我が生い立ち」

田中美智子 会員

１月より入会させていただきました田中美智子と申します。どうぞよろしくお願い致します。

一昨年、大嶋会員が会長の時、留萌クラブで卓話をお願いされ、その時の話と少し被るかもしれませんが、我が生い立ちとしてお話をさせていただきます。

私の父がよく言うのですが、“お前は留萌で産卵した鮭だ”と言います。私の結婚式で、大反対していた父が話した言葉で、「留萌で生まれ、留萌に戻ってきて、留萌のために何か出来る事があれば何か、私の娘を使ってやって下さい」と言った事です。中には色々な事が含まれていますが、私は昭和44年留萌に生まれました。昨年50歳になったばかりです。

私が生まれた年の留萌の人口は約４万３千人位おり、留萌市の歴史に於いて一番人口が多い時でした。実は小学校１年生の５月までしか留萌におらず、主に道北を転々と父親の転勤について引っ越しを重ねました。私は50歳になり自分の人生を振り返る時、いつも思い出すのが５～６歳頃の留萌の街並み、風景なのです。その頃、留萌のシティガールが住んでいる本町に住んでおりまして、皆さんもよくご存知でしょうが、松屋スーパーがあって、十字街の所に薬局屋があって、小野ちゃんラーメンがあって、鈴屋さんという御餅屋さんがあって、ロッカワおもちゃ屋さんがあって、本町に続くシティタウンは錦町で、モリヤおもちゃ屋があって、八幡デパートがあり、佐藤帽子屋があった街並だったと思います。私は本町に住んでおりましたので、そこから少し下りた三島屋さんで、母はトコロテンを食べて、私はソフトクリームを食べた記憶が鮮明に残っております。街がいつもお祭りのようで、私は小さかったのですが、私は“将来この街に戻って何かしたいなぁ”と思っていました。一番強く感じた事は、本町の所にあったたいらスーパーの所で、夜になるとバナナや瀬戸物を売っていた人がおりまして、

コウコウと裸電球をつけて商いをしているおじさんがおりまして、その人に初恋の人みたいな感銘を受け、将来私はあんな風に物を売る商売がしたいと思いまして、現在田中青果に嫁ぎ、商売をしているキッカケとなった幼少期の思い出として残っています。

私は小学校を６校替わっておりまして、いわゆる１年に１校という感じで転校をして参りました。今はこんなに図太い人間になってしまいましたが、その当時は行く場所場所でイジメに遭い、先々どこかの時点で自分を変えなくてはいけないと思い、人とのコミュニケーションを大切にして、人の懐に入るにはどうすれば良いかなどを幼少期に学んだのだと思います。人間の精神的な形成は12歳位までに決まると言われていますが、私の場合は完全に12歳までの人生観が今の人生に作用しているのだと思います。小学校はそのような事で、中学校は羽幌中学校に通いました。高校は２校替わっております。17歳の時に留萌に戻って来るという吉報を得て、最初の留萌の時は父は平社員でしたが、色々と転勤を繰り返すうちに色々な役職について、留萌から出発して色々と転勤場所をかえて、父の出身地羽幌に戻って来た時には会社で最年少の所長として帰って参りました。父は父で羽幌から回って羽幌に帰る鮭の様な人生を送りました。実は羽幌で父はロータリアンになっておりまして、その当時、父のロータリアンとしての奉仕を見て、子供ながらにこんな世界があるんだと思った記憶があります。そんなこんなで色々と話が飛びますが、羽幌中学校を卒業し、羽幌高校へ入学しましたが、17歳の夏ついに父が留萌に転勤という話があり、そのワクワク感と言えば、前に旭川や色々な所におりましたが、早く私は留萌に帰りたいと思っており、どうしたら留萌に帰れるのだろうと考えていました。私の母が留萌生まれでしたので、留萌にはよく帰っていましたが、留萌から帰る時には悲しくなって泣いていた記憶があります。もし父が留萌に転勤で帰る事になった場合は、その時はもう他の所へ転勤になっても自分一人でも留萌に残る覚悟でおりました。笑い話ではないですが、自

分の人生を留萌で花を咲かせ、終わらせるんだという気持ちでおりました。これが私の17歳の時の乙女心でした。

留萌に帰ってきて、毎日が楽しくて、他の17歳の子供より留萌を多く探索していた自負があります。小学校の低学年、５～６歳の頃、小さなバケツを持って黄金岬へ行き、磯ツブやヒル貝を拾っておやつにして、ある日は東光の裏山に行って山菜を取って食べるという野生児のような生活をしていました。留萌に帰ってきて黄金岬に行ってみようと思い、黄金岬を散策すると小さい頃の思い出とは違い、気候変動か、磯焼けで磯ツブが居なくなっており、小さい頃の思い出とは別の留萌がそこにありました。その後、また父の旭川への転勤が決まり、何やかんやありましたが、野中家では大事件が勃発しました。それは私が大学受験で、大学は既に決まっておりまして、中学校も高校も受験の経験を持つ私でしたが、大学へ行くと二度と留萌へは戻っと来れないだろうと考え、私自身こっそりと大学へは行かないと決めていました。既に推薦入学が決まっておりましたが、先生にお願いして親に言ってもらえないかと頼み、学校と親と私の間で大変な事になり、親からはそんな奴は家から出てけと言われ、生まれて初めて父親にものすごい剣幕で怒られました。家族間では父が母に「お前が留萌の楽しさを教えるからいけない」とケンカになったり、最終的には母が「あの子の人生はあの子のものなのだから」と母が父を説得してくれました。野中家ではさらに私の結婚の時にも大騒動になり、父親は旭川に帰ってくるものだと考えており、留萌で結

婚する、それも商人。父親にすればトリプルパンチを食らった感覚で、父親を説得するのに相当かかりました。ここに発起人をやっていただいた渡邊さんもおりますが、本当に大変な結婚式で、父親の承諾を得る事が出来ず、しばらく籍を入れる事も出来ずにおりました。しかし、ある事がキッカケで父親に認めてもらえるようになったのですが、今はもう無くなったのですが、やん衆横丁のお祭りの時に大会長の命を受けた時に、それを聞いた父親が、それは泣くような嬉しさで喜んでもらい、「お前が留萌に残る残る言ってたけれど実は認めていなかった」と、「お前が一生懸命留萌のために活動をしているのを見ると、お前が本当に留萌で生きていく、東京にいる留萌出身者や札幌にいる留萌出身者、地方にいる留萌出身者に留萌の元気見せてやることは大変嬉しい」と。母親も留萌出身ですが、留萌で生まれ、留萌から地方へ行ってもまた留萌へ帰ってきて留萌で活動する、まるで鮭のような人間になって、やっと父親に認めてもらったような気がしました。

私の人生50年の紆余曲折がありましたが、私が今この地にいるという事は、この地に貢献しているんだと思っています。それは商人だからとか商人ではないからではなく、企業主だとか従業員だからということではなくて、やはりこの地に生まれたからには、死ぬ時に、「あぁこの地に住んでて良かった、最高の街」と思えるように住んでいきたいなと思って、それをいつもも胸に思っております。今50歳を迎え、商人、田中青果に嫁ぎまして、先ほど言いましたが、旧姓野中から田中にちょうど半分が野中で半分が田中の歳になりました。自分が好きで来た商人の家ですが、田中欽也と結婚する事は、田中青果と結婚する事だと、色んな事で嫉妬する事は田中青果のためにならず、旦那には“田中青果の同志として頑張って行こう”と言われ、初めは何と厳しい事を言うのだと思いましたが、25年経って今考えると、家族もそうですが、田中青果の一部となってこれからも生きて行きたいなと思うようになりました。先代にはいっぱい怒られて、“田中に嫁いだからには田中の色に染まってもらわなければ困る”と言われ、泣いた日もありましたが、それもこれも今は納得が出来るようになりました。

留萌が本当に大好きです。嫌な時もありますが、自分の我が故郷だと考え思うと、この空気が好きで、この人が好きで、この街が好きで、郷土愛を持ち続けて、商いとしては色々な所に行って留萌の良さを伝えながら留萌で生きて行きたいと思っています。まだ人生50年で、諸先輩方と一緒に留萌を盛り上げていけたらいいなと思っております。これからもよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。